

Pain Chinon パン シノン

岐阜県岐阜市神田町3-4
 Tel.058-215-1028
<https://www.facebook.com/PainChinon/>



神田町3丁目。通りから路地を少し入るとすぐそこに、思わず扉を開きたくなるお店があります。昨年5月に開店したパンとワインの店「Pain Chinon」。

Pain Chinon 店主 早川しのさん

**あたりまえにおいしい。
 ここに来たら楽しい。
 そんな空間を
 作り続けていきたい**



パン職人を目指すきっかけとなったのは、その後勤めたホテルベーカリーでした。「パンづくりって、ほんとに難しかったんです。それがぐくぐくして絶対究めてみせると思いました」常にチャレンジし続けたいという、早川さん。自らを「恐いもの知らずなんです」と語り、パン職人への修業先に選んだのは、全国にその名の知れた飛騨高山のベーカリーでした。周りからは「幼稚園児が大学へ行くようなものだ」と驚かれながらも門をたたき、人の何倍も修業を重ねました。そして2005年、次なる学びの先を求めて長野へ。そこはワイナリーレストランとして国内外から著名人が訪れる店。ここで料理やワインの知識、そして遠くからでも訪れたくなる店の魅力を知りたいと、住み込みで働きだしました。全ては「自分の店を持つ」という夢への階段なのです。

そんな新たな階段を上る途中のある日、早川さんがパン職人の修業をしているとの噂を聞きつけた以前働いていた岐阜のレストラウンエディングのオーナーから、「今度うちで新たに始めるベーカリー部門をやってみないか」と声をかけていただきました。

「夢に近づいてきた。やってみよう！」

こうして高山・長野を経て、いよいよ岐阜へ。店長として、材料や機材の選定なども任せていただきました。「最初は相手にもしてもらえなかった業者の人たちが徐々に信頼してくれるようになり、『自分の店を出す時には俺たちに任せとけ』と、背中を押してくれました」これも全て温かく見守ってくれたオーナーやスタッフのアドバイスや協力のおかげだと振り返ります。そして9年が経ち、満を持して創業を決意。さまざまな方面からのアドバイスを受けるなかで、当所の支援に辿りつきました。

柳ヶ瀬は本物を知っている大人のまち

「この通りの雰囲気が好きなんです」
 そう、笑顔で語るのは、店主の早川しのさん。
 「店の場所を選ぶ際、友人たちからは『えー、柳ヶ瀬なのー』と心配されました。でも私は『え？何？』って言い返しちゃいました」
 早川さんの店の界限には、いわゆる柳ヶ瀬の『いい時代』を謳歌した大人たちがたくさん暮らし、また店主の個性に人が集う、そんな「味」のあるお店が軒を連ねます。また程よいバランスで起業した若い元気な人たちの店も増えはじめ、早川さんのような懐かしさと新しさが交わった「新しいフィールド」が生まれだしています。
 「こんな魅力のあるまちって、他にはないですよ！」
ここには本物がある。

思い立った時が動く時

早川さんの子どもの頃からの夢は「自分の店を持つこと」でした。
 業種などにはこだわることなく「自分で何かを作って売る」ことに夢を抱き、高校で服飾デザインを学び専門学校を経て子供の服のデザイナーに。しかし、いつしか憧れはカフェへと移っていき、「もっとお客様と接する仕事が強めたい」と岐阜市内や郊外のイタリアンレストランやケーキ店などで修行を重ねました。この時の学びが、今の早川さんの原点でもあります。

意欲ある女性起業家を支援しました！

平成26年度岐阜県地域活性化ファンド事業費助成金採択

岐阜県特産品である飛騨牛乳や野菜を中心に作ったパンの製造販売とイトイン事業

空き店舗が点在する場所への出店でしたが、近隣には住宅も多く、また会社員や商店で働く人たちの集客が見込めると思いました。今後も、女性が創業して持続的に商売が成り立つモデルケースとして、また早川さんのパンを扱う、早川さんの店でくつろぐことが「柳ヶ瀬へ来る楽しさ」といったような、岐阜市中心市街地に賑わいをもたらす店となるべく支援を続けていきたいと思えます。

当所 市川経営支援員

「パンって、忙しい朝には手軽な朝食にもなり、お昼は好きな具材を挟んでランチにもスイーツ感覚やおやつとしても美味しく、夜はお酒のおつまみにもなります」
 そんなシーンにも決して邪魔にならない名脇役。それが「パン」だと早川さんは語ります。

「以前、ある著名なレストランを経営なさっている方から『お客様にとって大事なのは、誰と何を話したかであって、その方々のために如何にして居心地のいい空間を作り出すかがレストランの仕事。料理はそのための最高の演出のひとつ』と、教えていただきました」
 早川さんは、自分の店もそんな「空間」になればいい。そしてその空間には「おばあちゃんになった自分」がまだ現役でいる…。そんな姿を心に描きながら、日々を「自然体」で生きていきたい、と夢を語ります。

10年、20年、30年経って：
 「Pain Chinon」の扉を開けてみてください。
 きっとそこには、
 美味しいパンとワイン。
 そして、今と同じ笑顔の早川さんが
 迎えてくれます。

